

世界が集まる国際大学(IUJ)があなたを待っています！




IUJ早わかりデータ

- ◆ 国際大学(IUJ)は 1982 年に国際社会を担う優れたリーダーの養成を目的に、広くわが国の経済界、教育界並びに地域社会からのご支援のもと、日本で最初の全て英語で教育を行うプロフェッショナルスクールとして設立されました。
- ◆ 2 研究科で 5 修士プログラムを提供しています：
国際経営学研究科
MBA プログラム
E ビジネス経営学プログラム (1 年制修士)
国際関係学研究科
国際開発学プログラム
国際関係学プログラム
国際平和学プログラム
- ◆ 国際色豊かな教授陣は、90%が欧米の一流大学院(ペンシルベニア大学、コーネル大学、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス、ミシガン大学、カーネギーメロン大学等)で PhD を取得しており、優れた教育・研究を提供しています。
- ◆ 専任のキャリアカウンセラーが、学生の入学前からワークショップ、個別面談等で欧米型キャリアサポートを行い、修了 3 ヶ月後の就職率は 100%を誇っています。インターンシップのサポートも充実しています。
- ◆ 日本人キャリアカウンセラーによる個別相談も東京事務所(六本木)で行っています。出願手続や就職の不安等、何でもお気軽にご相談下さい。
- ◆ IUJ には常に約 50 カ国からの留学生が在籍、修了生は 100 カ国以上 2,600 名を数えています。アジアからの学生比率が高く(68%)、その多くが政府、中央銀行等からの派遣生。アジア諸国情勢やビジネス事情・実践を各国のエリートから直接学べることは IUJ の大きな魅力のひとつです。
- ◆ 入学前に開講している夏期英語集中講座(IEP: Intensive English Program)で、大学院の授業に積極的に参加できるレベルまで上達できます。
- ◆ 日本人学生向けに授業料の全額免除、半額免除の奨学金があります。

IUJの中の日本人

- ◆ 日本人修了生数は 883 名(全修了生の 33.9%)。

- ◆ 日本人の在 student 数は 34 名(全学生の 11.8%)。
- ◆ 日本人学生のうち、企業派遣生は 73.5%。研究科別に見ると、国際関係学では 30%、国際経営学では 91.7%。
- ◆ 9 月入学制の IUJ では 6 月に修了式を行います。2008 年修了式で総代を務めたのは国際開発学プログラムの吉岡修さん(日本精工株式会社派遣)と MBA プログラムの田中一弘さん(富士ゼロックス株式会社派遣)で、ともに日本人学生でした。


修了式で謝辞を述べる田中さん
- ◆ IUJ において、ホスト国・日本の学生は留学生にとって頼れる存在。教室の内外で、多国籍チームを統率するリーダーシップ能力が自然と培われる環境と言えます。
- ◆ IUJ で最初に修了証書を授与されたのは、国際関係学研究科 1 期生(1985 年修了)の安倍宏行さん。安倍さんは現在、フジテレビ報道局経済部長・解説委員として活躍中です。
- ◆ 2008 年修了生、江川次郎さん(MBA プログラム、松下電器産業株式会社派遣)は在学中、ベトナム人のクラスメイトとともに香港科学技術大学(HKUST)主催の『2008 年国際ビジネス・プラン・コンペティション』で準決勝まで進み、アジア金融の中心地で活躍する投資家や企業経営者等の国際色豊かな審査員を前にプレゼンテーションを行いました。
- ◆ 海外で活躍する日本人修了生の勤務地は、米国、英国、シンガポール、オーストラリア、中国、香港、フィリピン、タイ、ベルギー、ベトナム、韓国、ドイツ、イスラエル、インドネシア、エジプト、カナダ、スイス、チュニジア、トルクメニスタン、パキスタン、ハンガリー、フランス、マレーシア、ミャンマー、ヨルダン、ロシアの 26 カ国・地域です。





吉岡修さん
国際開発学プログラム 2008 年修了
(2008 年国際関係学研究科総代)
日本精工株式会社

よくカルチャー・ショックと言いますが、IUJ はただ国籍だけでなく、海外の公務員や企業人など、職業も立場も違う人々が世界中から集まるので、最初は意思疎通すら難しく、二重にショックでした。入学前の夏期英語集中講座「Intensive English Program (IEP)」の 8 週間で 4~5 回プレゼンテーションを練習したのでコミュニケーション手法が均質化され、英語での自己紹介にも役立ちました。秋学期からの授業でも、途切れることなく徐々に課題が与えられ、自然に学習ペースができるシステムに感謝しています。

ビジネスは経済情勢などのマクロな動きを分析し、予測しないと成功しない。その意味でビジネス上の判断に不可欠な理論を勉強できた実感しています。また経済学を学ぶには数学の知識が必要ですが、その数学の授業が楽しく、今までの苦手意識を克服できたのには驚きです。金融実務を積んだ優秀な先生に教えていただいたからでしょう。そして 50 人中日本人 4 名という環境でしたから、自然に国際感覚が身に付き、将来海外に赴任しても大丈夫という自信につながりました。

もし、海外への留学を考えるなら、IUJ もぜひ視野に入れて検討してみてください。日本人比率 10% 以下で日々学ぶという環境は、国内はもちろん、日本人同士が寄り添ってしまう海外でも得難いものでしょう。経済理論や分析手法を身につけることが社会人にとって有益であるとともに、この国際的な環境から多くの可能性が広がっていくのを感じられます。また、社会経験のない大学生の皆さんにとっても、自分の将来をグローバルな眼で見つめ、世界基準で摸索できる点からも貴重だと思います。



小谷修一さん
MBA プログラム 2007 年修了
明治安田生命保険相互会社
人事部 人事グループ

IUJ は世界 50 カ国以上から学生が集まっている非常にインターナショナルな環境です。基本的に全寮制であり、私も寮に住んでいたの、学生同士、否が応でも密なコミュニケーションを取ることがで

きました。バラエティに富んだ留学生達と、ともに学び・生活することは、多様な価値観・考え方、文化の違いなど、いろいろな事を肌で実感することができ、自分の視野を大きく広げることができたと思います。また、私たち日本人学生はホスト国の学生として、留学生からいろいろと頼られることも多かったのですが、そのような環境を通して、自然にリーダーシップを発揮する機会にも恵まれたと感じています。私たちは、クラスメイトを通して彼らの国について知り、彼らは私たち日本人学生を通して日本というものを知っていく。つまり、彼らは私にとってその国の代表であり、私は彼らにとっての日本代表なのです。これは IUJ だからこそできた貴重な経験ではないかと思っています。

2 年生の時には、さらに自分の視野を広げるために、2 つの海外留学プログラムに参加しました。まず、夏休みの 1 カ月間、IUJ の提携校であるフランスのランスマネジメントスクールが提供する北京サマープログラムに参加し、中国ビジネスについて、北京の清華大学で学びました。参加学生は、フランスを中心にヨーロッパ各国の大学院から集まっており、IUJ とはまた違う個性に富んだクラスメイト達から刺激を受けながら勉強することができました。その後、秋学期には、IUJ の交換留学制度を利用して、ファイナンスで有名なアメリカ NY 州のロチェスター大学サイモンビジネススクールへ留学しました。IUJ ではホスト国の学生として留学生に頼りにされていた立場から、今度は、留学生として外国に住み、生活をしながら勉強することを経験したわけです。このように、両方の立場を経験することで、どこの地域にも偏らない、真にバランスのとれた国際感覚を養うことができたと思います。

IUJ 修了後、人事部に配属され、現在は、人材開発全般に関する企画・立案・運営を担当しています。IUJ への留学を通して学んだアカデミックな知識や理論をダイレクトに実務に使用することは、そう多くありませんが、何より、留学を通して身についた、課題解決に向けたアプローチの仕方や、さまざまな角度から物事を考える姿勢、バランス感覚などは、仕事を進めるうえで十分に活かされていると実感しています。

これから MBA にチャレンジする方へのアドバイスとして、修了後に何をやりたいのか、しっかりとした目標を持って留学した方がよいということをお伝えしたいです。そのような目標を持っていれば、勉強や生活環境がどんなに大変でも、乗り越えることができると思いますし、修了後のキャリアにもしっかりつながっていくと思います。入学後に、その目標の範囲が拡大したり、方向が少し変わったとしても、私はいいいと思います。むしろ、常にそういった目標意識や課題認識を持ちながら学んでいくことが、とても重要だと思います。

